

# 北中 綾子

高52期

ピアニスト



生野高校創立100周年おめでとうございます。

美しいと感じ、心を動かすことができる人はとても素敵だと思います。そしてそれはきっと人生に彩りを与え豊かにしてくれるのではないのでしょうか。美しいと思う心は揺るがないのです。

それは私にとってはピアノであり、音楽でした。

ただ、それに生涯をかけようと思った時、私はどれほど情熱があるのだろうかと自問自答しました。一度目は高校生の時。二度目は留学したいと思った時。本当に私は音楽に情熱を傾けられるのか、それほどまでに「好き」と言えるのか。

高校時代はクラブ活動や授業よりも、とにかくピアノを弾きたくなった時期でした。それでも、生野高校では、様々な友人に出会い、たくさん刺激を受けました。音楽高校に進学しなかったことで、かえって自分の立ち位置も理解できました。生野高校で学んでとてもよかったと思っています。

人生は様々な選択です。別に私がピアノを弾かなくても誰も困らない。でもやっぱり私は弾きたい、音楽をしたい。そう気づいた時、私は極寒のポーランドの地に立っていました。日本を飛び出してやって来たものの、とても心細くなってとぼとぼ雪の中を歩きました。ですが、心に抱えていたのは、とにかくピアノを学びたい、音楽を勉強したいという熱い気持ちでした。

アンジェイ・ピクル先生のもと、2年半、ショパンやシマノフスキなどポーランドの作曲家を中心に、無我夢中で学び、弾きました。

それは人生の宝物の時間でした。それが演奏家としての糧となり、今も、日本で、時にポーランドで、演奏活動を行い、ピアノを仕事として続けています。

将来役に立つのか、何の意味があるのか、そういったことに関わらず、何にでも触れてみてください。そして自分が好きだと思えることを大切にしてください。その感覚を育むのは、多感な高校生時代なのですから。

## ■プロフィール

大阪教育大学教養学科芸術専攻音楽コース卒業。ポーランド国立クラクフ音楽大学研究科修了。留学中タデウシュ・ジムジンスキコンクール第1位、現代曲国際室内楽コンクールソロ部門入賞。シマノフスキ作品の解釈が高く評価され、ザコパネ、パリ等ポーランド内外のシマノフスキ音楽祭に出演。ポーランド各地でリサイタルを行うなど幅広い演奏活動を展開し帰国。その後も2010年オギンスキ国際ポーランド音楽祭に招聘され各地で演奏、2015年にもポーランドでリサイタルツアーを行う。

国内では大阪のザ・フェニックスホールにて4回のリサイタルを開催する他、関西を拠点に毎年様々なコンサートで演奏活動を行っている。